

TIME DRIVER

～僕らが描いた未来～ ver1.2

2017.5.18

山元隼一

【形式】

24分×1話

【ジャンル】

SFロボットアニメーション

【タグライン】

夢見る心の力で動くロボット「タイムドライバー」。
その機体に乗って、地球を救った子供が
大人になって再び、搭乗して戦う物語

【ターゲット】

昔、子供だった大人に向けて。20代～30代くらい。

【バリュー】

童心を取り戻させてくれる作品。夢みることの大切さを伝える。

【登場人物】

松原勇斗(27)

都内の玩具メーカーの営業

正義感は強い、優しい青年。都内の美大を出たあと
今の会社に就職。営業の割に人に気を遣って、
グイグイいけず、不甲斐ないところがある。

実は、子供の頃、タイムドライバーというロボットに乗って、
15年前に地球を救ったが、その記憶は今はない。

タイムドライバー

勇斗の描いた絵から生まれた地球を守るロボット。
ダークマターと対峙していた
子供達の夢見る心の力で生まれた並行世界の巨樹
ドリームツリーの力が入り込むことで生まれた。

操縦は二人で行う。時間を自由に行き来できる。

正義感が強く真面目。だが、一般常識などに欠けるところがある。
人間世界のことを興味を持ち、よく勇斗に図書館から本を借りて来てもらっていた。

ちび勇斗(12) 2002年の頃の子供の頃の勇斗。

小学6年生

倒し損ねたダークマターを追って、
タイムドライバーに乗って、未来の自分に会いに来た。

熱血漢の少年。絵を描くことが大好き。

考えるより先に行動している。天真爛漫。

絵を描くことが大好き。

美波アイ(27)

勇斗の幼馴染で、恋人。一緒に地球を救った。
都内のIT企業で働くOL。クリエイティブの部署にいる。

毎日、忙しいが仕事にやり甲斐を覚えている。

しっかりもので、頑固。一度決めたことはなかなか曲げない。

勇斗のことが心配で、ついつい口うるさく言うってしまう。

面倒見がいいが、おせっかいなところがある。

今は勇斗と、とある事情で距離を置いている。

【プロット】

宇宙で二つの光がぶつかる。

タイムドライバーと暗黒のエネルギー体である「ダークマター」との最終決戦。

タイムドライバーには二人の少年と少女が乗って操縦している。

一人は松原勇斗、もう一人は勇斗の幼馴染の美波アイ。

一方のダークマターは禍々しいエネルギーが凝縮した形状をしている。

タイムドライバーは鳥型の形態から人型のモードに切り替わり、

ダークマターに対して、最後の一撃を繰り出す。

巨大な爆発が起き、ホワイトアウト

? 「松原君。。おい、松原君」

勇斗「いま、大変なんだって」

? 「松原！」

目をさますと、松原勇斗はオフィスにいる。

上司が不機嫌な顔で横に立っている。
上司「何が大変なんだ？ってw」
上司に営業成績が上がらないこと
に対して、皮肉を言われる。

隣の会議ブースに目を向けると、
ホワイトボードに、新しい子供向けの玩具の企画を
ブレストしている。

上司からもらった資料にさっきの夢で見た
ロボットの落書きを途中までしてグチャグチャと
上からボールペンで塗りつぶす。

勇斗は都内にある子供向けの玩具メーカーで営業をしている。
会社に入った時のような情熱を失っていた。

また、幼馴染で恋人だった美波アイにそのことを指摘され、口論になり
会わない日々が続いていた。

勇斗は自宅への帰路の途中。
渋谷の街で時空を切り裂いて
夢で見たロボットと何かの戦いに遭遇する。

そのロボットは、人混みの中に勇斗を見つけて頭上に飛んでくる。
？「やっと見つけた！」
無理やりコックピットに乗せられる。(UFOの光に人が吸い込まれるようなイメージ)

見覚えのあるコックピット。
少年の顔を見て驚く。

そこには小学6年生の頃の勇斗(ちび勇斗)がいた。
ちび勇斗「未来もあまり街並みは変わらないんだね。」

昔の記憶がフラッシュバックする勇斗

15年前。
勇斗は、「タイムドライバー」というロボットに乗って
子供達の絶望の心から生まれた「ダークマター」と戦っていた。

タイムドライバーは、
並行世界の子供達の夢みる心が集まった大樹
「ドリームツリー」の力が
勇斗の描いたロボットの絵に入り込んで
具現化した正義のロボットだ。
時空を超えた移動をすることができる。

そして勇斗と幼馴染のアイはタイムドライバーの力を
借りることで地球を救った。

そして、その役割を果たしたことで、
勇斗やアイや戦いに関わった人間は
ドリームツリーにその戦いの記憶を消された。

でも、過去から来た勇斗は少し違う時間線から来た。

2003年にダークマターを倒し損ねてしまい、
2018年1月の現代に逃げられてしまう。
それを追って、タイムワープして、現代に来たのだという。

倒せなかったのは、
ちび勇斗は、些細なことでアイと喧嘩してしまい、
それで倒せなかったためらしい。
タイムドライバーは二人乗りのロボットだ。二人の波長や
夢見る創造力がなければ、真の力は発揮できない。

そのため、現代に逃げて来たダークマターを倒すために
今の27歳になった勇斗の力を貸して欲しいと頼む、ちび勇斗。
アイの使っていたビーウォッチを渡そうとする。
腕が大きくなって、もうつけられない。

現代のアイの力を借りれないのか？と聞くちび勇斗だったが、
今は同じく距離を置いているアイには頼れない。

ダークマターと戦うが、夢見る力が、ちび勇斗が1万ドリーム
(戦闘力のようなものです)
に対して、勇斗がマイナス9000ドリーム。
勇斗はちび勇斗の足を引っ張ってしまい、惨敗。
夜の小学校(母校)に落下。

ちび勇斗は勇斗を非難する。
なぜ夢見ることを忘れてしまったのか、
それではダークマターに勝つことはできない。

意気消沈する二人。
勇斗とアイは卒業を前に控えて
埋めたタイムカプセルを埋めていたことを思い出す。

卒業を前にアイが遠くの街に転校することになり、
それで未来の自分への手紙を埋めたのだ。
15年後にまた開こうと。

そのタイムカプセルを開くと、
そこにはたくさんのカードや漫画などなど。
そして、描きかけのタイムドライバーの絵。
今の形態とちょっと違って新しい装備が付いている。

自分に宛てた手紙を開く

未来の僕へ

「未来の僕はどんな大人になっていますか？
僕は絵を描くのが好きです。アイが上手いって褒めてくれるからです。
今も描いてますか？それと、アイは隣にいますか？
じゃ、また15年後に。」

Ps.描きかけのタイムドライバーの絵を入れておきます。
もっと強い形なんだけど、
今の僕にはうまく描けないので、残りは仕上げてみてよ。
」

アイが転校した後のことを勇斗は、ちび勇斗に話す。
全部は話してはいけないと思ったので、かいつまんで。
転校した街が遠くだったから、文通を始めたこと。
アイと再び同じ高校になったこと。そして、交際を始めたこと。
なんとか努力の末、第一希望だった美術大学に入れたこと。
就職活動が大変だったこと。そして、念願だった玩具メーカーに入れたこと。
最初は会社に熱を持って入ったものの、
意に沿わない営業部の所属になり、今まで情熱を失っていたこと。

色々あったんだねと勇斗を慰めてくれるちび勇斗。
そして、さっき非難したことを謝る。

テレビでニュース。
病院に多くの子供たちが謎の昏睡状態になり
運び込まれているという。

ちび勇斗は、ダークマターに
夢みる力を奪われてしまったのだろうと言う。

描きかけだったタイムドライバーの絵を仕上げると
発光する。
タイムドライバーが新しい形態になる。
ビーウォッチのベルトをツギハギして、
腕につける勇斗。
二人はタイムドライバーに乗り、
ダークマターの元に向かう。

ダークマターとの決戦。
タイムカプセルに入っていた子供の頃のカードや漫画、
そして手紙が発光し、夢見る力が上がっていく。
ダークマターを完全に消滅させる。

お互いにアイと仲直りしようと約束して、
子供時代の勇斗は過去に戻る。

再び、オフィス。
隣の会議ブースで、企画会議をしている。

立ち上がる勇斗。勇気を出して、
自分の描いたロボット「タイムドライバー」の絵を描いて持っていく。

そして、勇斗は家への帰路で、
アイに電話をする

勇斗「あ、アイ？えっと。。ご無沙汰。元気にしてる？
一緒に埋めたタイムカプセル覚えてる？
今日さ、企画出してみた。営業なんだけど。

絵を描いてみてさ。」

勇斗の手には、アイの書いた子供の頃の手紙。

未来の私へ

「元気ですか？転校した中学はどんな感じですか？たくさん友達できるといいな。

どんな大人になっていますか？

あと、15年後は勇斗の隣にいられますように。」

ED

【設定メモ】

・ドリームツリー

人は大人になると同時に 子供であること から決別する。
子供が大人になる時、その夢見る力は別次元にある夢の大樹
ドリームツリーに飛ばされる。その力は
夢見る力「ドリームシード」として、次世代の子供達に
夢見る力を授ける。

・ダークマター

ドリームツリーから生まれた
子供達の未来への絶望の心の集合体